中央銀行

今期（2024 年第 2 四半期）、中央銀行の金需要は引き続き堅調でしたが、過去数四半期に比べると減少しました。

- 今期の中央銀行の金需要は合計 183 トンで、前四半期比で 39%減、前年同期比では 6%の増加でした[6]。
- 2024 年上半期のネット購入は 483 トンで、これまでの記録である昨年同期の 460 トンから 5%増加しました。
- ワールド ゴールド カウンシルの 2024 年中央銀行金準備高調査（2024 Central Bank Gold Reserves Survey）の結果は、この分野の金需要が今後も旺盛であることを裏付けています。

トン	2023 年第 2 四半期	2024 年第 2 四半期		前年比変化率（%）
中央銀行およびその他機関	173.6	183.4	▲	6

出所：メタルズ・フォーカス、ワールド ゴールド カウンシル

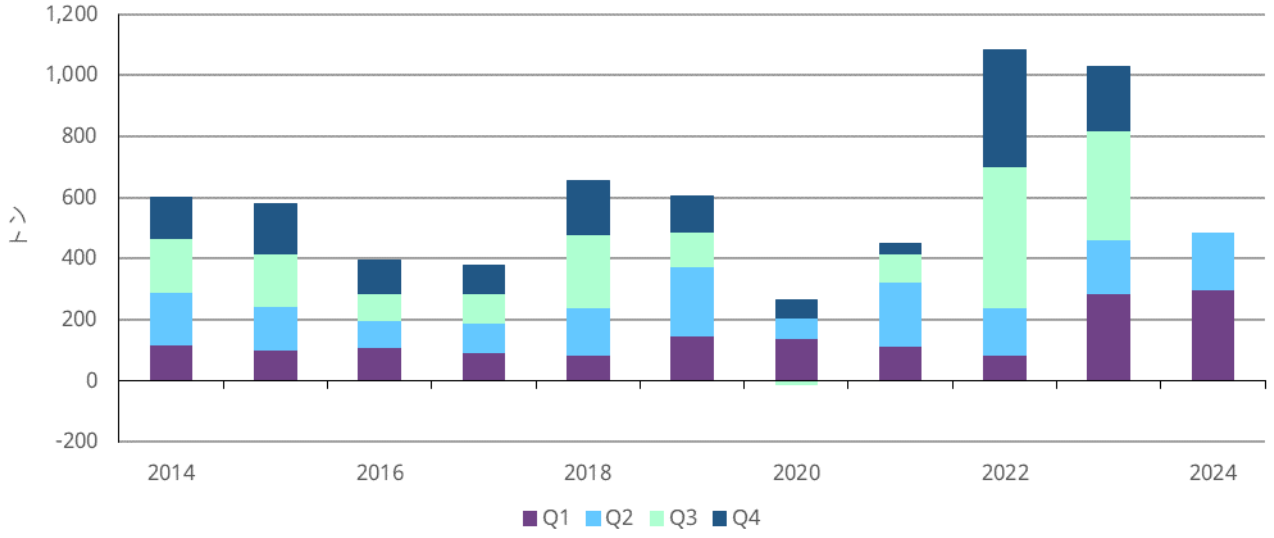
今年初めに記録破りのスタートを切って以降、中央銀行の金購入は第 2 四半期に入って急減し、前四半期比マイナス 39%の 183 トンとなりました。しかし、これでも購入量としては非常に健全なレベルで、過去 5 年間の同一四半期平均である 179 トンを 3%上回りました。さらに、プラス需要が続く長期トレンドも拡大しています。第 1 四半期の買い越しと合算すると、上半期における中央銀行の金需要は合計 483 トンとなり、ワールド ゴールド カウンシルのデータシリーズの中で上半期としての最高記録を更新しました[7]。

今期、報告があった購入量は減少しましたが、同時に売却も減少しました。売り買いにおいては、引き続き新興市場（EM）がしっかりとけん引役を果たしており、直近の四半期では、14 の新興市場中央銀行の金準備高が 1 トン以上増加または減少しました[8]。これに対し、先進国の中央銀行で今期、金準備高が増加したのは 1 行だけでした。

今期、金の購入量が最も多かった中央銀行の一つがポーランド国立銀行（NPB）でした。NPB の金購入は 2023 年第 4 四半期以来のことで、金準備高は正味で 19 トン増加して、金の総保有量は 377 トンとなり、準備資産全体の 13%に達しました。6 月初めの記者会見で、NPB のアダム・グラピンスキ総裁は、準備資産全体に占める金の割合を 20%まで増加させる計画をあらためて表明しました[9]。

図 10：上半期過去最高を記録した中央銀行の金需要

四半期別中央銀行金需要



*データは 2024 年 6 月 30 日現在。
出所：メタルズ・フォーカス、ワールド ゴールド カウンシル

6. 本稿執筆時点で公表済みのデータ。ゴールド・デマンド・トレンドの目的において、中央銀行需要とは、各国中央銀行および（該当する場合、IMF や主権国家資産ファンドなどの超国家的組織を含む）その他の公的機関による純購入量（購入量から売却量を差し引いた量）として定義されている。ワールド ゴールド カウンシルの四半期ごとの中央銀行需要データはメタルズ・フォーカスから提供されたものであり、公共分野の活動に関する独自の推定値には、IMF IFS、国際貿易データなどさまざまな情報源が組み込まれている。そのため、IMF IFS で公表されるデータは、ゴールド・デマンド・トレンドで取り上げる中央銀行金需要のサブセットとなっている。いずれのデータセットも、新しい情報が入手できた場合や、公的機関のデータ発表の遅れや更新に対応するため、改訂される可能性がある。
7. ワールド ゴールド カウンシルの四半期データシリーズは、2000 年までさかのぼることができる。
8. 国レベルのデータは、本稿執筆時点で正しかったものである。報告があった時期とゴールド・デマンド・トレンドの発行時期との時間的ずれのため、国レベルデータのすべてが四半期全体の状況を反映しているわけではない。
9. Poland to dramatically boost gold reserves | TVP World、2024 年 5 月 10 日。

今期、インド準備銀行（RBI）は金の購入を継続し、金準備高を 19 トン増加させました。今年に入ってから RBI は毎月、金準備高を増やしており、年初来の買い越しは合計 37 トンに達し、2022 年（33 トン）と 2023 年（16 トン）の年間買い越し高を上回っています。

4 月、シャクティカンタ・ダス RBI 総裁は次のように述べています。「RBI では、金準備高を増加させており、データについては随時公開する…」[10]。現在の RBI の金準備高は 841 トンで、準備資産全体の 10%に当たります[11]。

今期、トルコ中央銀行は公式金準備高を 15 トン増やし、年初からの買い越しは 45 トンで、中央銀行としては最大となりました[12]。国内市場の逼迫を解消するために、トルコ中央銀行が大量の売却（102 トンの売り越し）を行った昨年の上半期とは異なり、今年は第 2 四半期を通して購入が中断されることがありませんでした。現在の公式金準備高は 585 トン（準備資産全体の 34%）です。

今期購入量で注目すべきその他の中央銀行は、ウズベキスタン中央銀行（7 トン）、チェコ国立銀行（6 トン）、カタール中央銀行（4 トン）、ロシア中央銀行（3 トン）、イラク中央銀行（3 トン）、ヨルダン中央銀行（1 トン）、キルギス共和国国立銀行（1 トン）です。先進国市場で唯一、今期の金準備高が増加したと発表したのがシンガポール金融管理局（4 トン）です。

中国人民銀行（PBoC）は、今期の金購入が大きく減少したことを発表しました。4 月に 2 トンの買い越しがあった後、5 月と 6 月には金準備高の変動はありませんでした。2022 年 11 月から 2024 年 4 月まで、PBoC が公表した金購入量は 316 トンで、金準備高は 2,264 トンに達しました。今年、金価格が高騰したことによって、PBoC の準備資産全体に占める金の割合は 5%となり、1996 年以来の高水準となりました。

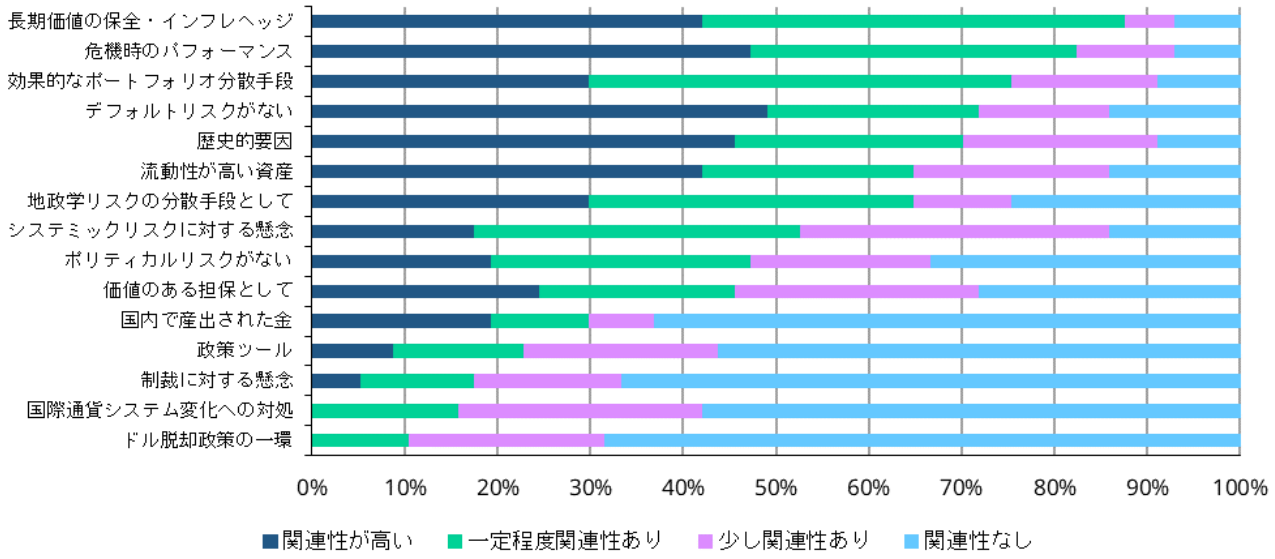
今期、売り越しもありましたが、買い越しに比べるとわずかでした。金準備高が 1 トン以上減少した中央銀行は、フィリピン中央銀行（12 トン）とカザフスタン国立銀行（12 トン）の 2 行だけでした。

過去数四半期と同じく、今期も未公表の需要が全体の多くを占めました。ワールド ゴールド カウンシルの推定では、こうした需要が全体の 67%を占めています。

今期、インド準備銀行とナイジェリア中央銀行はそれぞれ英国と米国から金を自国に送還したと報じられました[13,14]。送還は、金の（所有権ではなく）所在地の変更のみを意味するものであり、したがってワールド ゴールド カウンシルの需要予測には影響しません。ただし、中には金の自国内での保管を重視する中央銀行も存在するという事実が明らかになりました。

図 11：ヘッジや分散手段としての金の役割は中央銀行にとっての重要事項

金を保有する決定において次にあげる要因はどの程度関連性があるか？*



*基本：金を保有するすべての中央銀行（57）、先進経済（18）、EMDE（39）。「非常に関連している」と「ある程度関連している」による順位付け。
出所： YouGov、ワールド ゴールド カウンシル

10. Transcript of the Reserve Bank of India's Post-Monetary Policy Press Conference（インド準備銀行のポスト金融政策記者会見筆記録）：2004 年 4 月 5 日
11. ワールド ゴールド カウンシルの中央銀行金準備高ランキングは次のサイトで確認できる：Central Banks Gold Reserves by Country | ワールド ゴールド カウンシル。
12. トルコの公的部門の金準備高は、中央銀行が保有する金と財務省が保有する金の合計である。これは金準備高の合計から、中央銀行が商業セクターの金政策、例えばリザーブオプションメカニズム（ROM）、担保、預金、スワップなどに関連して保有する金を差し引いたものに相当する。この方法論に関する情報は、このリンク先を参照のこと。
13. RBI sources explain why India brought back 100 tonne of gold reserves from the UK | Latha Venkatesh, 2024 年 6 月 1 日.
14. Nigeria repatriates gold reserves amidst concerns over US economy | Mike Ikem, 2024 年 4 月 22 日.

中央銀行の金需要の見通しは引き続き堅調です。そのことは、ワールド ゴールド カウンシルが先頃実施した中央銀行アンケート調査で確認されており、調査回答者の内 81%が、今後 12 ヵ月間で中央銀行の金保有量は増加すると予想し、29%が自国の中央銀行の金準備高は増加すると予想しました。

調査では、中央銀行が金を保有する主な理由も明らかになり、その中では安全性が最も重要な要因であるように思われます。回答者は、長期価値の保全／インフレヘッジとしての役割、危機時のパフォーマンス、効果的なポートフォリオ分散手段、デフォルトリスクがないことが依然、金の魅力のカギとなっていると答えています。

今年上半期の実績と実施したアンケート調査結果に基づき、ワールド ゴールド カウンシルは、2024 年通年において、中央銀行は引き続き力強く金を購入するとの予測を維持します。現在のところ、中央銀行の年間合計は今年も相当な金額に達すると見込まれていますが、過去 2 年間の額に匹敵するか、あるいは上回るかは今後の展開にかかっています。